

第4回学校運営協議会 議事録

1. 日 時 令和6年3月4日（金） 19:00～20:00
2. 会 場 玉川小学校第2図書館
3. 出席者 伊藤良人さん、伊藤孝さん、長田秀子さん、望月克治さん、白川雄三さん、
小林正芳さん、小林俊男、大槻織詠、五味活朗 （計9名）
※五味味賢一さん、中澤良雄さん、は欠席

4. 議事内容

- (1) 会長あいさつ
- (2) 学校長あいさつ

【小林俊】 今、義務教育が曲がり角を迎えている。小学校が存続していけるかの危機に面している。玉川小学校も大きく変わっていかねばいけない時期にきている。皆様方に今後も力を貸していただきながら、よりよい玉川小学校をつくっていききたい。

- (3) 令和5年度の活動について

【長 田】 幼保小の連携はどうだったか？

【大 槻】 2学年が中心となって、それぞれの保育園と3回ほど交流を行った。子どもたち自身で企画も行った。ここ数年、コロナの影響で交流があまりできていなかったが、今年度はしっかり交流ができた。今後も広げていきたい。

【長 田】 保育園児にとっては、小学校は憧れの場所。年長の園児が小学校のお兄さんお姉さんたちと交流することで、年中や年少の園児にとってもよい刺激になる。

【小林俊】 保育園のように、小学校でも1日に1時間は、子どもたちが活動に没頭できる時間をつくりたい。来年度から茅野市では「縄文のビーナスプラン」がスタートする。その中で、みんなで同じことをするのではなく、子どもたちそれぞれが自分のやりたいことに没頭できる時間をつくっていききたい。来年度の児童会長から「ケヤキフェスで児童会の時間をつくってほしい」と頼まれた。子どもたちが地域と関わりを持とうとしていることがうれしい。

【白 川】 東京から帰ってきて10年、頼まれた役は全てやった。コロナ前は紙芝居やゲームなど、子どもたちと関わることもいろいろやったが、コロナで地域の中の役割がなくなったら、子どもたちとの関わりが全くなくなってしまった。

先日テレビを見ていたら、ある学校では、紙飛行機を作って飛ばす子、読書をする子など、同じ教室の中でそれぞれの子どもが自分のやりたいことを自由にやっていた。先生はそれを教室の隅から見守るだけ。こういうやり方が今の流行りなのか。

【小林俊】 間違いなくそういう方向に向いている。しかしその中で、子どもたちにどんな力がついたかを説明できなければいけない。教師の力量が試される。ただ、自分のやりたいことをわがままにやるのではなく、そこに相手意識も必要になってくる。

【白 川】 かつて明星学園など、子どもたちのやりたいことからスタートして、自由に活動する学校が流行ったが、そうしていくには10年くらい準備が必要なのは。

【小林俊】 全部は無理だとしても、1日6時間授業がある中の1時間くらいは、子どもたちがやり

たいことをやらせてあげたい。

【望 月】 日本でもフリースクールでは、子どもたちが自分たちでカリキュラムをつくっている。北欧では、1～3年生と4～6年生の2グループに分け、1クラス10人くらいで異学年の児童同士で学んでいる。1～3年生のクラスで3年生として下級生に勉強を教えていた子は、4～6年生のクラスに進級すると、今度は4年生として上級生から勉強を教えてもらう立場になる。こうして、教えたり教わったりすることで、社会的なことを学んでいる。

【白 川】 自分たちが子どものころは、地域の上級生からいろいろなことを教えてもらった。そういう関係が、自然発生的に生まれていた。

【望 月】 自分たちが子どものころは、近所に集まって、上級生が学校へ連れて行ってくれた。そこから地域のつながりが生まれた。

【小林正】 スケートクラブは、まさにその形。レベルに分けてチームを組んで練習している。競争が嫌いな子もいるので、楽しさを尊重してやっている。「好きこそものの上手なれ」が大事。

昔はスポーツを媒体にして縦関係ができていた。また子どもたちに、スポーツの世界に戻ってきてほしい。

【伊藤良】 地域と子どもたちが連携する。ケヤキフェスがその起爆剤となれば。そして、自然とこういうことが受け継がれていくとよい。

【伊藤孝】 今年のケヤキフェスは、子どもが主体となっていて良かった。これまでは大人が主体であったが、4年ぶりということもあり、今までのデータがないので、新しいものをやるような気持ちだった。その中で、子どもたちをメインにしたことが、功を奏した。

雨だったため、急遽学校を会場にお借りしたが、それも成功の要因。玉川小学校を中心にまわったお祭りだった。

【小林正】 今年は150周年に合わせて発表も行ったと思うが、来年はどうか。

【小林俊】 来年もやりたいクラスは出てくると思う。ケヤキフェスをめざした活動ができると良い。クラブもケヤキフェスをゴールにして活動していく。

【小林正】 大事なのは共通の話題。子どもたちの発表の場があると、共通の話題が生まれる。

【白 川】 昔は収穫祭があって、玉川全体に高揚感があった。大人が企画して子どもたちをまきこんだ。村をあげてのお祭りはエネルギーがいるが、心に残るものができる。

【小林俊】 こういうイベントで「ふるさとの宝物」を歌っていくと、玉川の歌として根付いていく。

(4) 学校評価について

(5) 令和6年度に向けての意見交

【伊藤良】 今、玉川コミュニティの広報誌の編集をしている。これを中学生にやらしてもらえないか働きかけている。生徒会活動として位置づけば、それを見た小学生が「自分たちもやってみたい」と思えるのでは。

また、子ども館も20周年を迎えるので、ケヤキフェスで何かイベントができればと考えている。

【長 田】 玉川小学校150周年にもっとたくさん花を咲かせたかったが、できるお手伝いはでき

た。ぬくもりメッセージや田んぼプロジェクトは、これからも続けていかれるといい。あいさつ運動にも参加したが、子どもたちのあいさつがいまいち元気がないのが気になる。

【望 月】 見守り活動や米づくりで子どもたちと関われたが、もっと関わりを増やしていきたい。地域の人が気軽に教室に入って、授業を見たり給食をいっしょに食べたりできるといい。

【伊藤孝】 これからも地域のつなぎ役としてがんばりたい。

【白 川】 「おはようございます」の先に、あいさつの大切さがあるのでは。あいさつの後、「朝ごはん何食べた」などの声掛けがあると良いのでは。会話が続けると何か変わるのでは。元気がないのもその子の個性。「元気出せ」と言われても難しい。

5年生の先生が電動のこごりの使い方について尋ねてきた。うれしかった。以前は職員研修をしたこともある。

【小林正】 ケヤキフェスで子どもの発表があるのはいいが、大人の手が足りなくなってしまう。今年には運動会に合わせ、オヤジの会で国旗掲揚塔を改修した。使い方についてききちゃんと引き継いでいきたい。

(6) 諸連絡

(7) 会長あいさつ

【伊藤良】 活発な意見、ありがとうございました。この1年はコロナもおさまり、玉川小学校が150周年を迎えたこともあって、いろいろなことが好転して、良い1年になったと思う。このムードを来年も続けていきたい。3月でこの役を退く方もいるかもしれないが、地域の一員としてこれからも玉川小学校を支えて行ってほしい。